

石巻市小湊浜の震災復興過程に与える継承と活性化のプロジェクトの成果に関する考察

東北工業大学 学生会員 ○嶺岸 紀美彦

東北工業大学 正会員 稲村 肇

東北工業大学 正会員 泊 尚志

1. はじめに

東日本大震災から 8 年が経過した。被害の大きかった地域で、震災前の活気を取り戻せていないところがある一方で、復興を経て大いに活気のあるところも存在する。石巻市小湊浜地区は、震災で甚大な被害を受けた小規模な漁村でありながら、震災後における漁業の迅速な再開をはじめ、多数のプロジェクトの実施など、他の地域に見られない活発な復興を遂げている。そこで、本研究では石巻市小湊浜を対象として、文献やインターネット調査、関係者へのインタビュー調査を通じ、地域の文化の継承や活性化のプロジェクトが震災復興過程に与えた影響について考察することを目的とする。

2. 小湊浜の概要

小湊浜は、宮城県石巻市(2005 年の合併前は旧牡鹿町)にあり、牡鹿半島の南西部に位置する。世帯数 196 世帯、人口は 470 人(2018 年 12 月末時点、給分浜を含む)で、牡鹿半島内では規模の大きな地域である。主産業の漁業は古くから営まれており¹⁾、第一種漁港である、小湊浜漁港、給分浜漁港を有し、カキやワカメ、ノリの養殖、アナゴ漁などが盛んである。住民の多くが漁業関係者であり、比較的若い世代の男性が多いが、青年団のような存在である実業団の団員数の減少や、若い世代の市街地への移転など様々な問題を抱えている。

東日本大震災によって、集落の大部分が浸水し、家屋や漁業用の納屋、漁業道具、養殖施設、漁船などが多く失われ、ほかにも小湊浜で経営されていた三つの民宿が営業できなくなるなど壊滅的な被害となった。この間、小湊浜の人口は 753 人(2010 年 9 月末時点)から 471 人(2015 年 9 月末時点)と減少した。なお、集団移転やインフラの復旧は本稿(2019 年 1 月)時点で概ね完了している。

小湊浜はいくつかの特徴を有しており、それらが小湊浜の活性化に影響を与えた一因であると考えられる。

第一に、震災により甚大な被害を受けたが、震災後に浜での漁業を辞めた人数が他の浜と比べ少ない点である。これらは石巻市市街地から通いで漁業を実施する人が増加したことや小湊浜の人々が自主的に漁業再生に向けて地域を挙げて行動していたことが要因であると考えられる。一方行政による漁業支援も活用した。小湊浜で実施された行政による漁業支援は複数存在し、多くは費用の 9 分の 1 のみ個人で負担する内容であった。しかし行政からの漁業支援は、震災直後に実施されなかったため、当初、小湊浜の人々は行政からの支援を期待せず、自身の力での漁業の再生を実施した。

第二に、震災直後から現在に至るまで、震災前には見られなかった多種多様なプロジェクト(表 1)が実施されている点である。

表-1 プロジェクト一覧

活性化のプロジェクト	
小湊浜通信 ²⁾ の発足	小湊浜復興地ツアー
五十鈴神社修復プロジェクト	小湊浜花火大会
桜畑寄席	
文化の継承	
獅子舞復活プロジェクト	小湊浜五十鈴神社夏祭り
小湊浜神輿復活バスツアー	金華山黄金山神社初巳大祭参加
漁業再生、漁業支援	
小湊浜ふるさとプロジェクト	がんばる養殖プロジェクト
表浜漁業再生プロジェクト	

第三に、震災後に様々な人々が小湊浜の支援やボランティアに携わり、ネットワークが形成されている点である。小湊浜の活動は SNS やメディアなどで発信され、ボランティアに関わる人だけではなく、多くの人々に知られる土地となった。また小湊浜内でも震災により、人々のつながりが強化された。

3. 調査概要

小湊浜の震災復興過程における多数のプロジェクトと文化の継承が与えた成果を明らかにする目的で、本研究では小湊浜への関わり方の異なる 10 人(表 2)へのインタビュー調査を実施した。

キーワード 震災復興、活性化プロジェクト、小湊浜

連絡先 〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1 東北工業大学 TEL 022-305-3533

またインタビュー調査のデータを用い、獅子舞復活、五十鈴神社夏祭りの神輿担ぎの復活、小湊花火大会、小湊通信の活動、小湊の漁業の再生の5つの活動について焦点を当て、小湊で実施されたプロジェクトの役割について体系的な整理を実施した。

表-2 インタビュー対象一覧

小湊地区区長	牡鹿総合支所 地域振興課
小湊実業団 現・前団長	小湊の民宿
小湊通信代表	牡鹿地区の保育所所長
アーキエイド発起人(震災後牡鹿半島の調査を実施)	

4. 調査結果

本章では小湊の震災復興過程で実施された活動から、暮らしの再建、地域活性化の要因の理解を試みる。インタビュー調査では、各種プロジェクトの大まかな時系列や人々の行動について明らかにすることができた。そこから、小湊での活動の役割を明らかにすることを目的に、プロジェクトの体系的な整理を行なった。その際に用いる項目は、他地域で同様の活性化のプロジェクトを実施しようとする際の参照となるよう、活動の発足、進行に重要となる(1)プロジェクトの主体、(2)キーパーソン、活動の指針となる(3)目的およびその変化、外的条件である(4)よそ者効果³⁾、活性化の要因となりうる(5)小湊の活性化に影響を与えた要因とした。内容の詳細は表3のとおりである。

5. 結論

本研究では、震災復興過程において小湊で実施されている多数のプロジェクトについて、インタビュー調査を実施、そのデータを基に体系的な整理を行い、小湊の様々なプロジェクトが活性化に影響を与えた成果と役割として以下のことが明らかになった。

- ・小湊内でのネットワークの形成。
- ・外部の土地、人への継続的なネットワークの形成。
- ・よそ者であるボランティアと小湊の人々の交流の場を提供、支援の受け入れ態勢の整備。
- ・小湊の人々のしてほしいことをよそ者が正確に理解し、協力し合いながら継続して活動。
- ・小湊の人々の心境、行動の変化の推進。

参考文献

- 1) 遠藤匡俊(1982): 漁業紛争から見た近世村落の相互関係, 東北地理 (34-2), pp76-87.
- 2) 小湊プチ通信, <https://kobuchihama.jimdo.com/>
- 3) 敷田麻実(2009): よそ者と地域づくりにおけるその役割にかんする研究, 国際広報メディア・観光学ジャーナル(9), pp79-100.

表-3 プロジェクトの体系的整理

活性化のプロジェクト	
小湊通信の活動	
(1)	小湊通信のメンバー
(2)	小湊通信代表 A さん・小湊通信前代表 B さん 実業団員(当時)C さん
(3)	小湊の皆さんが自立しようとする姿を見守りながら、行政に行き届かない部分での後方支援を行う
(4)	技術や知識の地域への移入 地域(や組織)の変容の促進 地域の持つ創造性の地域の惹起や励起 しがらみのない立場からの問題解決 地域の持つ知識の表出支援
(5)	BBQ の実施などよそ者と小湊の人々の交流の場の提供 小湊の支援の受け皿となり、プロジェクトの企画、運営を実施 SNS を通し地域の繋がりや外部との繋がりが強化 ボランティアの方々のネットワークの形成、継続的な支援の実施
小湊花火大会	
(1)	小湊通信・小湊通信代表 A さんの友人の花火師の方々
(2)	小湊通信代表 A さん・実業団員(当時)C さん
(3)	I. 復興の願いを込めて小湊に花火を上げる II. もっと良いものが見たいと地元で寄付が集める III. 小湊の人々の為にこれからも花火を続ける
(4)	技術や知識の地域への移入 地域(や組織)の変容の促進
(5)	皆が共通して楽しむことのできる場の提供 地元だけではなく、都心部からの寄付の受け入れにより支援できる場の提供 小湊の人々の繋がりや強化・小湊を通し様々な場所への支援の繋がり
文化の継承	
獅子舞復活	
(1)	小湊通信・実業団
(2)	小湊通信前代表 B さん・実業団員(当時)C さん
(3)	I. 津波で流されてしまった村の伝統である獅子舞の復活 II. 小湊の誇りであった獅子舞を復活させることにより、精神的支柱としたい III. 獅子舞文化の継承
(4)	技術や知識の地域への移入 地域の持つ創造性の地域の惹起や励起
(5)	獅子舞復活資金の為に助成金申請など知識の提供 区長による住民アンケートの実施による問題意識の共有 地域の誇りの復活による意識の向上
五十鈴神社夏祭りの神輿担ぎの再開	
(1)	D 大学チーム出張寄席・実業団
(2)	D 大学チーム出張寄席・小湊通信代表 A さん 実業団員(当時)C さん
(3)	I. どんな形であっても神輿担ぎを復活させる II. 小湊のシンボルの神輿を復活させ、皆を笑顔にしたい III. より人を集め完全な形で神輿担ぎを復活させる
(4)	地域の持つ創造性の地域の惹起や励起 地域(や組織)の変容の促進 しがらみのない立場からの問題解決
(5)	定期的に寄席を開くことで交流の場の提供 皆が共通して楽しむことのできる場の提供 受け入れていた段階から、自分達も変わる心境の変化
漁業再生、漁業支援	
漁業の再生	
(1)	地域全体・行政
(2)	小湊の漁師たち
(3)	I. 何もしないよりは少しでも収入を得る II. 震災被害を受けても生きる道があることを示す III. これからも小湊で生きていく
(4)	技術や知識の地域への移入 地域の持つ創造性の惹起や励起
(5)	皆が漁業再開に向けて動きだしたことにより希望が湧く 小湊の生活そのものである漁業の再生による誇りの復活 生業の再開による生活の再建